第 15 回熊谷市地域公共交通会議会議録

平成 26 年 7 月 4 日(金)14:00～14:55
熊谷市立商工会館　大ホール

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議題

（１）ゆうゆうバスのルート変更について

【事務局説明】

①さくら号のルートの一部変更について（資料１参照）

ゆうゆうバスのさくら号は、運行ルートが約 69㎞に及び、その大半が信号の多い市街地を運行しているため、朝から昼にかけての便に、遅れが目立っている。

また、その内４便は、市役所や八木橋東、総合病院などへも運行しており、平成２３年から運行を開始した「直実号」のルートと重複している。

このため、定時運行への改善を視野に、「直実号」との重複部分の必要性について、乗客に聞き取り調査を実施した。

調査の結果、８：０９熊谷駅南口発の便については、この区間の乗り降りは３日間とも１人もいなかった。

また、廃止することで、毎日、朝の渋滞等による 10 分から 20 分の遅れが、解消出来ると思われる。

次に、１０：０６熊谷駅南口発の便については、資料１のとおり利用者があったが、「直実号」の運行ルートと重なるため、省略することにより、「直実号」の利用者増加が見込め、朝と同様、時刻の遅れを調整できることから、廃止したい。

ただし、乗り継ぎ券を発行するなど、今までの利用料金と同じ１００円で利用出来るよう、バス事業者と調整したい。

なお、１２：０９熊谷駅南口発の便については、運行ルートが重なる「直実号」が同時間帯に運行していないため、現状のとおり残していきたい。

②流通センターへの延伸について（資料２参照）

流通センターから、朝、夕の便の運行に関する要望があり、ゆうゆうバスを

延伸する変更ルート（案）となっている。
　朝は、7：50 熊谷駅南口発のムサシトミヨ号で源宗寺入口停留所を通過後、流通センター方面に向かい、上之荘へ戻ってくるルートになる。
　夕方については、グライダー号で、上之荘停留所を通過後、流通センター方面に向かい、また、源宗寺入口停留所へ戻り、熊谷駅南口へ向かうルートとし、流通センター周辺を 17 時 30 分から 18 時前後に運行できるよう、時刻表を見直したいと考えている。
　なお、現在熊谷市では、行田市、秩父鉄道と共同で、秩父鉄道熊谷駅と持田駅間に新駅設置を平成２８年度末を目標に進めており、新駅開設までの暫定運行を考えている。

③妻沼地域の太田小学校周辺の停留所新設について（資料３参照）
　ゆうゆうバスのグライダー号及びムサシトミヨ号の停留所増設となる。道ヶ谷戸自治会及び市ノ坪自治会から、それぞれ要望書を提出いただいた。
　事務局で現地を確認し、停留所の設置スペースなどの問題はない。なお、停留所の名称については、今後、地元自治会と調整して地元住民が親しみを持ちやすい名称としたい。

④直実号の運行方式の変更について
　利用者からの要望や市の外部評価委員、運行事業者の指摘により、直実号のルートを１便ごとに奇数便は時計回り、偶数便は反時計回りとし、交互に運行することにより、利便性の向上を目指すものである。

【質疑応答】
・さくら号については、運行本数が減少するということなのか。
　⇒直実号と運行ルートが重なる部分の停留所を時間帯によって、通過しないだけで、運行本数が減少するというものではない。

・さくら号の停留所を省略する便と、今までどおり運行するものは、どのように分別したのか。
　⇒直実号の運行時間帯により、分別した。具体的には、朝の８時の時間帯と１０時の時間帯は、同時刻帯を直実号が運行しているため省略する。１２時の時間帯は、直実号が運行していないため省略しない。

・停留所を省略することにより、どのくらいの時間短縮になるのか。
　⇒およそ、２５分くらいの短縮が見込める。

【結論】
原案のとおり承認された。

（２）バスロケーションシステムの社会実験について

【事務局説明】
①実施までのスケジュール（資料４参照）
②有限会社エイ・ケイ・システム（資料５参照）
　ひまわり号に搭載するシステムとなる。こちらの特徴は、パソコン及びスマートフォンからバスの運行場所が確認できるよう、地図上にバスの位置を表示するもので、より正確なバスの位置を把握することが可能となる。
　このシステムは、現在、埼玉県がソフトバンク及びエイ・ケイ・システムと共同で社会実験に取組んでいるシステムと同様のもので、上尾市、神川町で行なわれている。
③株式会社ＮＴＴドコモ（資料６参照）
　さくら号に搭載するシステムとなる。こちらの特徴は地図表示でなく、簡易的な停留所の表示にすることにより、パソコンやスマートフォンだけでなく、ガラケーと言われている携帯電話にも対応出来るものとなる。
　１０月の１ヶ月間社会実験を行ない、利用者へのアンケートを平行して行ないながら、来年度以降の導入について、検討していきたい。

【質疑応答】
・ゆうゆうバスの利用者は、ご年配の方が多く、そういった人たちが操作するとは思えないが、どの様に考えているのか。
　⇒自分で操作できないご年配の方も、バス会社や市役所において、このシステムによりバスの運行状況が確認出来るため、お問い合せに答えられると考える。
・こういった社会実験は、周知が非常に重要だが、市報やホームページだけでは足りないのではないか
　⇒バスの中にチラシを設置するなど、より多くの方に周知するよう努める。

【結論】
原案のとおり承認された。

（３）ゆうゆうバスの利用促進事業について

【事務局説明】

①「あついぞ！熊谷」１０周年を記念した、ゆうゆうバス利用促進のキャンペーンの実施について

②ゆうゆうバスや路線バスを使ったモデルコースのご案内ほか

【質疑応答】

・今年の４月に一部ルート変更をした、グライダー号及びムサシトミヨ号の利用状況はどうなっているのか。

⇒新設した停留所の荻野吟子記念館については、グライダー号の４月は 14 名で、５月は１名。ムサシトミヨ号については、４月、５月ともに１名。同じく新設した大野停留所では、グライダー号の４月は 29 名で、５月は 25 名。

・平成 25 年度のゆうゆうバスの利用状況について

⇒さくら号は　２２，８４１名（平成 24 年度２２，２９０名）
グライダー号は　２８，７０６名（平成 24 年度３０，５０４名）
ムサシトミヨ号は３０，４７３名（平成 24 年度３２，３９５名）
ひまわり号は　７８，５２３名（平成 24 年度７６，２５４名）
ほたる号は　３３，９５５名（平成 24 年度２５，７２５名）
直　実　号　は　１４，１４２名（平成 24 年度１３，７２９名）

・ゆうゆうバスのモデルコースはどのように広報しているのか。

⇒ホームページの他に、バスの車内にチラシを設置している。今後も新しいモデルコースを作成し、紹介したい。

・吉見町のゆうゆうバスがＪＲの吹上駅に乗り入れているが、熊谷市のゆうゆうバスは、他の市町村に乗り入れることは出来ないのか。

⇒渋滞や距離が長くなる。運行した場合、現在と同じ運行本数を確保することが難しくなるなどの課題がある。

4. 閉会

※傍聴者　１名